

～組織適合性を通じた個別化医療の実現へ向かって～

ようこそ、このたびは日本組織適合性学会のホームページにご来訪をいただき、深く感謝申し上げます。

本学会は、その前身である 1972 年に発足した日本組織適合性研究会の時代より、約半世紀に及び、移植医療の実現や個体多様性の理解に不可欠な「組織適合性」の概念の社会への普及とその基盤となる学術の深化をミッションとして活動を行ってまいりました。したがって、会員もさまざまな背景を有しており、医師・検査技術者・基礎研究者等の多職種が一同に介し、敷居のないコミュニケーションを通じて発展を続けているユニークな学会です。

今日、組織適合性の理解を必要とする社会的課題は増大の一途を辿っております。例えば、現在の人類は SARS-CoV2 パンデミックという困難と対峙していますが、このような危機にも即応し、すでに本ウイルス感染のリスクに関与する HLA (ヒト白血球抗原) や免疫応答遺伝子多型等に関する国際的研究が推進されております。また、患者さんに最適な医療を提供する「個別化医療」を実現する基本情報としても、HLA をはじめとする組織適合性関連遺伝子の重要性がますます明らかになりつつあります。私自身は一介の医師として、より安全性と有効性に優れた造血細胞移植の実現をライフワークとしておりますが、本学会に入会いたしました時には、適切なドナー選択のために「より良い HLA 適合性 とは何か」を理解したいとの一念のみでございました。この間、ヒトを含む多くの生物において全ゲノム解読が完了し、免疫学的多様性に関する科学的認識が深化するとともに、最新の遺伝子シーケンシング技術による HLA タイピングが診療現場で用いられる時代を迎えたことには、隔世の感がございます。

本学会は、2020年4月から一般社団法人として新生することと相成り、同年10月より徳永前理事長を引き継ぎ、私が代表理事を拝命することとなりました。まさに本学会に育てていただいた一会員として、今こそ粉骨砕身で恩返しをしなければならないとの決意を新たにしております。まずは就任にあたりまして、若手・中堅会員のさらなる活躍への支援、組織適合性・免疫遺伝学の社会への浸透、そして国際的学術コミュニティとのより緊密な連携を3つの目標として掲げさせていただきたく存じます。加えて、より多くの皆様との出会いを大切にしたいと考えておりますので、少しでも本学会の活動にご興味をお持ちであれば、ぜひお気軽にご入会下さい。

全ての会員の夢がかないますように、皆様と力を合わせて「来るべき新しい学会」の礎を築いて参りたいと切望しておりますので、ぜひ、温かいご指導をいただきたく、平伏してお願い申し上げます次第です。

一般社団法人 日本組織適合性学会

代表理事 一戸 辰夫

